

平成30年度第2回別府市総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成31年3月6日(水)
開会 午後1時30分 閉会 午後2時35分
- 2 場 所 別府市役所 5階大会議室
- 3 出席者
- | | |
|--------------------|------------------|
| (構成員) 別府市長 | 長野 恭紘 |
| 教育委員会 | |
| 教育長 | 寺岡 悌二 |
| 教育委員 | 福島 知克 (教育長職務代理者) |
| 教育委員 | 高橋 護 |
| 教育委員 | 小野 和枝 |
| (事務局) 総務部長 | 檜山 隆士 |
| 総務課長 | 奥 茂夫 |
| 総務課参事 | 本田 壽徳 |
| 総務課主査 | 荒金 伴幸 |
| 教育参事 | 稲尾 隆 |
| 教育次長兼社会教育課長 | 高橋 修司 |
| 教育政策課長 | 月輪 利生 |
| 学校教育課長 | 姫野 悟 |
| 学校教育課参事兼総合教育センター所長 | 亀川 義徳 |
| 教育政策課参事 | 藤田 一樹 |
| 教育政策課課長補佐 | 志賀 貴代美 |
- 4 議 題
- (1) いじめ・不登校の現状と今後の方向性について
 - (2) プログラミング教育を推進するためのICTの活用、推進について
 - (3) 図書館等一体的整備について
 - (4) その他

発言者	発言の内容
市長	<p>定されておりますので、以降は、市長に議長として議事を進めていただきます。市長よろしくお願いたします。</p> <p>それでは、議事を進めさせていただきます。</p> <p>別府市総合教育会議運営要綱第6条第2項で規定されておりますので、今回の議事録署名につきましては、寺岡教育長にお願いしようと思います。（教育長 承諾）</p> <p>それでは、はじめに事務局より本日の議題について説明をしてください。</p>
総務課長	<p>配布しております資料の確認をさせていただきたいと思えます。</p> <p>上から順に、「平成30年度第2回別府市総合教育会議」と書かれたもの、2点目は「第1回総合教育会議論点整理」A4の横1枚のものです。3点目が資料1、右肩に資料1と書かれております「いじめ・不登校の現状と今後の方向性について」、4点目の資料、資料2と右肩に書かれております「プログラミング教育等のICTを活用した教育の推進における企業及びNPO団体等との連携について」、資料の5点目になります、右肩に資料3と書かれております「別府市図書館等一体的整備」について、次にワンプーパー「平成30年度『別府市の不登校に関する意見交換会』記録のまとめ」、最後になります、1枚ものの「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）概要」以上7点の資料となっております。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、「第1回総合教育会議論点整理」、A4横1枚のものになります。その資料を御覧いただいてよろしいでしょうか。12月に開催しました第1回総合教育会議の論点を整理しております。</p> <p>まず、議題1のいじめ・不登校の現状と今後の方向性については、1番、不登校当事者との意見交換が必要、2番、民間や専門家等との連携が必要、という2点が出されております。</p> <p>議題2のプログラミング教育を推進するためのICTの活用、推進につきましては、1番、民間等と連携した教員の資質向上が必要、2番、民間等と連携した授業の充実が必要、3番、ICT教育環境の整備が必要、という3点が出されております。</p> <p>本日は、以上の論点に沿って御説明させていただきますので、御協議よろしくお願いたします。</p> <p>議題3の図書館等一体的整備につきましては、今後、図書館等</p>

発言者	発言の内容
<p>市長</p> <p>センター所長</p>	<p>の整備を具体的にどう進めていけばよいのか御協議をお願いいたします。</p> <p>以上で説明を終わります。</p> <p>ただ今、御説明がありましたように、本日の主な議題は3点で、委員の皆様からの活発な御意見をお願いしたいと思っております。それでは、さっそく議題の1つ目のいじめ・不登校の現状と今後の方向性について、先ほどの論点を受けまして、学校教育課参事兼総合教育センター所長より、説明をお願いいたします。</p> <p>いじめ・不登校の現状と今後の方向性について、本日は、第1回総合教育会議で御助言いただきました「不登校当事者との意見交換会」と「民間や専門家等との連携」につきまして、御説明させていただきます。</p> <p>まず、不登校当事者との意見交換会についてです。</p> <p>去る2月27日に不登校の経験のある方8名と不登校の子どもさんを持たれました保護者、また、学校の教員、教育委員会関係者の代表が集まり、不登校の課題解決につなげていくための意見交換会を開催いたしました。</p> <p>当事者の方に当時の思い、不登校になったきっかけや支援の在り方、また、転機となったきっかけなどの話を聞くことができました。詳しくは、お手元の別紙資料「平成30年度『別府市の不登校に関する意見交換会』記録のまとめ」にまとめさせていただいております。</p> <p>次に民間や専門家等との連携についてです。</p> <p>12月末現在、59名の全欠傾向の不登校児童・生徒がいます。これまで、総合教育センターで16名、また、東山小中学校に登校している4名を含め、20名に対して支援ができております。それ以外の39名が、日中、家庭の中だけでの生活となっております。</p> <p>その解決に関しましては、学校や教育委員会、教育センターだけでは難しい現状となっております。そこで、民間組織と連携して支援の幅を広げていくことを考えました。</p> <p>その1例といたしまして、民間組織が実施しておりますフリースクールについて、御説明いたします。</p> <p>県内のフリースクールの現状です。昨年3月現在、県の教育委員会が把握しているものですが、こちらにあります5施設となっております。今年度になり、大分市でいくつか増えていると聞い</p>

発言者	発言の内容
<p>市長</p> <p>福島委員</p>	<p>ております。</p> <p>昨年、県内にあるフリースクールの施設をいくつか視察いたしました。その中の1つで、大分市にあるNPO法人志塾フリースクールを例に、御紹介いたします。</p> <p>ここでは、フリースクール、放課後等デイサービス、通信高校を同じ場所で開設しております。15時までがフリースクール、15時以降は放課後等デイサービスとして運営をしております。1日の流れは、午前中は学習、午後は個別学習や自主学習となっております。現在の児童・生徒数は小学生3名、中学生5名、高校生5名で、通い方はバス、JR、保護者の送迎となっております。</p> <p>一般的に、大分県のフリースクールは、放課後等デイサービスを運営している事業所や学習塾が経営又は共同経営をしています。授業料は、有料となっています。活動内容は、学習活動や体験活動を実施しています。学校との連携では、活動の報告書などをフリースクールから学校に提出することで、出席扱いとなっているものもあります。</p> <p>これまでの取組といたしまして、他のフリースクールの視察を実施しました。また、市内16か所の放課後等デイサービスの関係者との意見交換を行い、フリースクールについての周知を行いました。</p> <p>現在、3事業所と開設について課題の洗い出しや解決に向けての話合いを行っているところでございます。</p> <p>これまでの話合いの中で、フリースクールを開設することで不登校児童・生徒の支援の1つになることは見えてきましたが、フリースクールだけの支援では、39名全員を支援していくことの難しさも見えてきました。</p> <p>それで今後の方向性ですが、意見交換会で出ました不登校当事者の思いや願いをもとに、市長部局の関係課、教育委員会、学校、また、民間や専門家の方にも入っていただき、幅広い考えから、不登校の課題解決に向けて協議していく実務者会議を開催していくことで、不登校児童・生徒への支援の充実につなげていきたいと考えております。</p> <p>以上で説明を終わります。</p> <p>質疑、皆様方の意見がありましたら、ぜひお願いしたいと思っております。いかがでしょうか。福島委員。</p> <p>学校が面白くないから行かない、学校に行くといじめられるか</p>

発言者	発言の内容
市 長	<p>ら行かないなど、色々な理由はあると思うんですけど、好きなことがやっぱりないんでしょうね、行かない人は。</p> <p>だから、好きなことから始めてあげるようなことをもっと考えてあげないといけないですね。絵が好きだって言うなら、させたらよいですね。最初から算数だ、国語だ、と言うと、ますます行きたくなくなるから。</p> <p>まず、何が好きかというのを引き出してあげると、もしかしたらうまくいく可能性がありますから、それは叶えてあげたいという気がします。</p> <p>既に学校の現場では、おそらく全欠傾向の子どもたちに一人ひとり個別に当たっていただいていると思うのですが、今、福島委員が言われたことについて、個別のケースとして学校現場では、どのような対応をしていますか。</p>
センター所長	<p>学校現場では、それぞれ、委員さんがおっしゃられた対応をしていますが、意見交流会で不登校の当事者8名の方から、いろいろ当時のお話を聞くことができました。</p> <p>基本的には、資料で触れさせていただいていますが、支援の仕方に、ただただ話を聞いて欲しい、そばにいて欲しいという意見が非常に多かったです。学校の話とか、学校に行くとか行かないとか、そういうのはものすごく辛いんだという話を聞くことができました。</p> <p>そして、その話の中には、今おっしゃられました、自分探し、自分の好きなこと、得意なことを見つけることができたというような話もありました。</p> <p>学校現場では、カリキュラム、授業中心の話があると思いますが、やはり授業以外のところで、昼休み、遊び時間又は放課後等の中で、また、中学校であれば部活動等で、そういった本人の好きなこと、得意なこと、趣味、そういった話をしながら、子どもの気持ちに寄り添って信頼関係を作りながら、今、対応をしているところであります。</p>
福 島 委 員	<p>今日初めてこの資料を見たのですが、やっぱりそうなんですね。好きなことから始めると子どもたちもついて来るんじゃないかなと私も正直思っています。</p>
市 長	<p>ありがとうございました。小野委員さん。</p>

発言者	発言の内容
小野委員	<p>学校には行けなくとも、どこかよその楽しいところとか、子どもが集まるところとか、そういう生徒たちは、希望とかあるのですか。</p>
センター所長	<p>なかなか今の現状では、日中、学校のある時間、子どもたちが行く場所というのは、非常に限られていると思います。</p> <p>先ほどお話ししましたが、教育委員会の中にふれあいルームはあるのですが、なかなか外に出て、そこで活動したり、学べたり、また、話を聞いてもらったり、会話をしたりするような場所は、今、非常に少ないのが現状です。</p>
小野委員	<p>話を聞いて欲しいなら、地域の方とか、そういう方の協力とかは難しいのですか。</p>
センター所長	<p>前回お話しさせていただきましたが、センターが取り組む事業の中で家庭訪問型アウトリーチ支援事業というのがありまして、市内の大学生と主任児童委員・民生委員さんがペアになって、家庭訪問して、学習活動や相談活動をしている事業はあります。現在、小中学校合わせて8名支援しています。しかし、十分に行き届いていないのが現状でございます。</p>
市長	<p>よろしいでしょうか。高橋委員、何かありましたら。</p>
高橋委員	<p>2月27日の意見交換会、非常に私も注目させていただきました。その中で、やはり今、亀川参事（センター所長）がおっしゃられた「そばにいてくれる。話を聞いてくれる。」、そして「認めてあげる。褒めてあげる。」。これは、ものすごく大事なことなんですね。</p> <p>教育委員会が取り組んでいることが間違っているという意味ではないのですが、もっと枠を広げて、例えば、地域あるいは校区内の青少年健全育成協議会で御活動いただいている皆さん方が大勢いらっしゃるわけですね。そういう方々にも御理解いただき、御協力いただけるような方法はないだろうかというふうな思いで今おるんですね。</p> <p>やはり、自分の話を聞いてくれて、そして大切にしてくれる人が身近なところにいるということは、なんらかの支えになっていただけるんじゃないかなという思いでございます。もっとそうい</p>

発言者	発言の内容
センター所長	<p>う方々にお手伝いいただけるような方法でお考えいただいたらどうかな、という思いでございます。</p> <p>各学校で、今、コミュニティ・スクールにおいて、地域の方々とつながりながらやっております。</p> <p>貴重な御意見をいただきましたので、これからまたコミュニティ・スクールを中心に、地域の方、また、NPO 法人や民間の方を含めまして、そういった方の協力や、それから支援を、数は限られていますが、最大限にそういったものを見つけるということですね、発掘しながら、そういった子どもたちの支援に努めていきたいと思っております。ありがとうございます。</p>
福島委員	<p>最後の資料の中に「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興」というのがありますけど、まさに、われわれは、だんだん歳を取っていくわけですね。私も歳を取りましたけど、その中で、じゃあ今から学校に行けって言われたって、絶対不登校になりますよね。不登校生徒になりますね。</p> <p>だけど、授業をちゃんとやってくれ、好きなことをやってくれたりすれば、進んでやっぱり行きたくなるわけですね。人間やっぱり、やりたいものがある、好きなものがある。今日ちゃんと行くような所を作ってくれと、絶対不登校生徒にはならないですね。</p> <p>好きなことをどうやってやらせていこうかと一体的に考えていただけると、なんかちょっと答えがありそうな感じがしますから、その辺が一つのピースなんじゃないかなと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございました。まさに、そこに行ったら何かをしなければいけないということよりも、やはり、それぞれ一人ひとりが個別で、やりたいこととか、やりたいものが全くないと言いながらも何かがあるはずだし、何かを探してあげるのも、やっぱり僕らの責任かなあというようなことも思っています。福島委員が言われるのは、そういうことだと思います。</p> <p>こういう短い時間では、個別のケースのこと、一人ひとりの子どもたちを、実はみたいと思っているけど、なかなかみる時間もないので、一人ひとりのそれぞれのケースというのは、どういうふうに、今、取扱いをされているのですか。</p>
センター長	<p>個別のケースですが、やはり中心となるのは、学校の先生方、</p>

発言者	発言の内容
市 長	<p>担任の先生をはじめ、養護教諭が中心になります。</p> <p>教育委員会といたしまして、センターの中に、そういった相談業務がありますので、一緒にケース会議等を開きながら、また、カウンセラーとかスクールソーシャルワーカーといった専門家も入りながら行っているところでございます。</p> <p>やっぱりそういう閉ざされた中で、限られた人の中でやっていると、同じような意見しか出てこないということも考えられると思うので、そういうのは個人情報なので、あんまりオープンにはできないけれど、例えば、今度作る実務者会議の中で、どこまで提示して、個別のケースを皆さんと一緒に考えていってあげられるかということが大事なんじゃないかなというふうにも思います。そのあたりもぜひ考えていって欲しいと思います。</p>
教 育 長	<p>今年度、いじめ等々の問題を議題にさせていただきまして、教育委員会の事務局として、毎年100人前後が不登校になっているということ大変重く受け止めておりまして、冒頭、市長のほうからも言われましたように、いくら意見交換会をしても、何が対策として大事なのかと、私たちも意見交換会の後に話をし、具体的にどうするのかということになりました。</p> <p>意見交換会の感想になりますけど、私も同席させてもらいましたが、不登校経験者の方が涙を流しながら、「学校が怖い、友達が怖い、そしてまた、先生が好きでない。」ということを言われました。</p> <p>敵が多いとか、学校が怖い、孤立が怖い、小学校から中学校に上がったとたん、こうやって学校から離れてしまう、友達から離れていく、そういうような状況の学校であるということを実際に真剣に受け止め、抜本的な中学校の授業の在り方、あるいは生徒理解の在り方等を変えていかないと、いわゆる教職員の意識の改革をしないと難しいだろうと思いました。</p> <p>それで、保護司の方とか、あるいは民生児童委員の方とかおられます。そういう方も、もしかしたら地域の中の子どもたちに関わるとか、あるいは学校と連携を取りながら、月に1回でもいいから連絡会を持ちながら、その子どもたちへの相談に応えるとか、要するに、寄り添うような人たちがたくさんいて、ほんとに認められて、心を許せるようなそういう学校、学級、あるいは授業にならないと、なかなかこの問題は難しいなと思いました。</p> <p>それと、やはり学べる学校にしないといけないだろうと思いま</p>

発言者	発言の内容
市長	<p>す。教師が一方的に押さえ込んだ授業とか、ただ記憶だけする授業じゃなくて、ほんとに子どもたち同士が主体的・対話的に学べるような授業づくりが喫緊の課題だと思っています。校長を中心に、もう一度、生徒指導を中心にした学校経営から、授業を中心に置いた学校経営へと、徹底して改革していかなければ、子どもたちは離れていくだろうと真摯に受け止めました。</p> <p>この記録のまとめが、今の学校の在り方の縮図だと思っていますので、抜本的に、具体的に変えていかないといけない、という反省でございます。</p> <p>フリースクールについては、別府市で今3か所相談させていただいているということでしたけど、市としては、1か所以上は、民間の皆さん方とぜひやりたいと、やるということですか。</p> <p>有料だと書いていましたけど、別府市の場合はどうなるんでしょう。</p>
センター長	<p>民間の方と打合せはしているのですが、やはり有料というのが非常に壁になっています。市としては早期に1つ開設したいのですが、運営の件もあり、お金を取らないわけにいかず、かといって、そういったお金を取る場合、取れるかどうかということも心配されています。</p>
小野委員	<p>別府市にフリースクールはあるのですか。どのくらいの人が利用しているのですか。</p>
センター長	<p>今のところ、別府市内ではフリースクールはないのが現状で、今から1つでも作っていこうと取り組んでいるところでございます。</p>
教育長	<p>フリースクールに頼る前の段階で、学校と教育委員会とで、もつとすることがあるだろうと考えています。</p> <p>どうしても家の中で引きこもって、なかなか学校機関での対応が難しいという子どもさんがあれば、そういうところに支援をお願いしたいということもありますけれども、やはり、学校の中で、地域と一緒にあって、要はコミュニティ・スクールとか、地域の身近な方ともつと連携が深まれば、救える子どもさんもまたいるのかなという感じがしています。最後の手段というかですね、そのように思います。</p>

発言者	発言の内容
市 長	<p>不登校で全欠傾向にならないように、勉強が分からなくなった時の手立ては、いろいろあると思うんですね。</p> <p>そんないろいろな手立て、不登校全欠傾向の子どもたちにならないような取組、絶対増やさない取組は、必要です。ただ、今もう30人、40人という子どもたちがいますから、その子どもたちに対しては、やっぱり、とにかく学校が嫌、例えば教育センターが嫌という、そこでは嫌だという子どもたちに、家以外の居場所、特に社会との入口というか、接点をどこか作ってあげないと、僕はいけないと思うんですね。</p> <p>だから、そういう所を作っていくという意味ではよいのかなと思います。</p> <p>料金等のことについても、場所についても、またこの場で皆さんにぜひ報告をしていただきたいと思います。</p> <p>それでは、よろしいでしょうか。</p>
市 長	<p>続きますは、議題2番目のプログラミング教育を推進するためのICTの活用、推進について、先ほどの論点を受けまして、学校教育課長から説明してください。</p>
学校教育課長	<p>お手元の資料2を御覧ください。まず、ページ番号を右下に記しておりますので御確認ください。1ページ目1を御覧ください。</p> <p>前回の議論の中でいただいた論点につきましては、冒頭、総務課長のほうから整理して申し上げたところですが、下の丸い絵のように教員研修、授業コンテンツの充実、そして、機材・人材・環境の整備と、この3つが今後必要になってくるだろうと考えています。</p> <p>それで、次の2のスライドを御覧ください。現状、教員研修をどういうふうに持っていくかということをもとめたものが、この絵でございます。左側の平成30年度を御覧ください。</p> <p>(1)の民間企業との連携で、今現在民間で何をやってるかという話ですけど、1つは、ソフトバンクさんと提携して、つい先日、水道局でデモンストレーションを兼ねて授業みたいなことをやりました。演習で先生方にはペッパー君を持ってきていただいて、ペッパー君に指示を出して、ペッパー君がどう動くかみたいなことをやりました。軽くプログラミングを学んでいただく、こういう取組もしました。先生方の関心はそれぞれでした。すごく関心のある先生とあまり関心を示さなかった先生と、まあ、それ</p>

発言者	発言の内容
	<p>は、こちら側のやり方の問題だったんだろうと思います。</p> <p>それから、2番目は、ベネッセのICT支援員の活用です。これは現状行っておりまして、表がございますけれども、一番右端のICT支援員を活用したプログラミング研修を実施している学校が、現状、小学校14校中6校ということでございます。今後は、更に活用できるとよいのではないかと考えています。</p> <p>下の(2)のその他機関としては、県教委ですとか、別府市の消費生活センター等の力を借りて、ICT研修を実施しているところでございます。</p> <p>今後の方向性が右側にあります。教員研修につきましては、県の実施するものがありますし、あわせて、市の総合教育センターの研修講座において、民間の方を講師に招いて実施できればということ、今、考えています。ICT支援員やその他の団体につきましては、協力してお力をお借りできればというところでございます。</p> <p>では、下のスライド3番になりますけれども、プログラミング教育の授業実践での支援で、実際に授業の中に民間企業の方に入ってきて、中身が充実しているかということでございます。</p> <p>大きく考えは2つ。左側にあります授業パッケージを提供していただくということ、もう1つは、右側にあります人を提供していただくということ。</p> <p>人につきましては、現状ICT支援員が4名配置されていまして、2、3回学校を訪問しているところで、実際には、下に矢印が伸びていますが、例えば、緑丘小学校は国語、石垣小学校は算数、北部中学校は技術家庭等々、それぞれの単元の中でICT支援員にも授業をしていただいているところです。</p> <p>ここで特に目玉になると考えているのが、民間企業やNPO、大学も含めて、こういうところの人、物、事をお借りして教材テキストを提供していただくとか、実際に先生方の指導の補助をしていただくとか、ここが新しいところです。それから、教育課程外のいろんな活動で支援していただく、左側の民間の力を借りるということを一層推進していきたいと考えているところでございます。</p> <p>では、4番のスライドです。環境整備につきましては、国の方針はそこに書いてあるとおりになんですが、現状、別府市は、大型提示装置それから回線等については、既に十分な整備ができているところですが、問題になるのは指導者であり、子どもたちの端末です。この整備をどうしていくかということが課題にな</p>

発言者	発言の内容
市 長	<p>っているところです。</p> <p>国の5か年計画がここに書いてあるとおりの水準になりますので、これに向かって今後できるところからやっていく必要があると思っております。いろんな制約がある中で学習指導要領の改訂にどう対応していくかということが問題で、2020年度に小学校の全面実施、2021年度に中学校の全面実施と、ひとつ節目になるのは、この両年度だろうと思っております。</p> <p>2020年度に国の5か年計画どおりに整備すると、そこにあるような整備が必要になるわけですが、できれば、いきなり全部の学校で一斉にやる前に、2019年度に可能であればモデル校を指定するような形で先行実施していただいて、その成果を共有しながら、少しずつ拡大していくことができればと考えているところです。</p> <p>今後、整備については関係課と協議していくことが必要だろうと思っておりますので、今のところは構想段階ということで御理解いただければと思います。以上でございます。</p> <p>はい、説明が終わりましたけれども、質疑、意見がありましたら、皆様からお願いいたします。</p> <p>はい、福島委員どうぞ。</p>
福 島 委 員	<p>たまたま先々週、教育委員の研修視察旅行がありまして、佐賀県武雄市に行って見学してきました。</p> <p>その時に、数学の授業と、国語の授業と、英語の授業を見学したんですけど、数学の授業で一番感心したのは、小学校4年生で、角度を教えるのにペッパー君を使いながら教えるんですね。</p> <p>要するに、角度だけ教えるなら空中戦をやっているみたいなので、一生懸命覚えるしかないんですね。だけど、角度を教えることによってペッパー君が動くわけですね。何度曲がりなさい、何度曲がりなさいってですね。</p> <p>実際に数学を使って動かすと、数学の深い例が頭に入ってきます。非常に私はいいい教育だなあと思いました。その後に、だんだん角度の問題が難しくなります。三角関数をロボットでやるようになるんですけど、何で三角関数があるか、何でサイン、コサインがあるかというのが、非常にわかりやすく説明できるのが、ICT教育の真髄だと思うんですね。</p> <p>だから、そういう真髄を分かった上で、それを取り入れていくのは非常にいいなと思いますから、ぜひとも先生方は、何をしな</p>

発言者	発言の内容
市長	<p>がら、何を教えようかということを考え、ICT教育をすると非常に教えやすいと思います。</p> <p>はい。小野委員どうぞ。</p>
小野委員	<p>私も武雄で、ICT教育として、やはりペッパー君を使った授業を見学しました。ペッパー君をソフトバンクから社会貢献事業として3年間貸し出してもらっているということでした。このペッパー君を、先生方の取り組みでバージョンアップしていくということで、しっかり検証していただきたいと思います。また、2020年に急に変わるよりも、不安をなくすために今から種蒔きをしておいていただきたいです。</p> <p>ペッパー君を利用する子どもたちを見ていると、プログラミングをする力を養うのですけれども、ペッパー君の台数が少ないものですから、みんなで協力して粘り強く考えて、思ったとおりの動きができると、すごく喜ぶというか、楽しみを味わっているような気がしましたので、ぜひお願いしたいと思います。</p>
市長	<p>高橋委員よろしいですか。</p>
高橋委員	<p>図形をペッパー君が描くためにプログラミングをするんですけれども。最初ペッパー君が動かなくて、全然ダメな状態でペッパー君がごめんなさいっていう姿で止まってるんですね。あれが人間ぽくてよかったなあっていう感じですね。</p> <p>入力が上手な子と、入力ができない、あるいは失敗するというような子どもさんとの差がちょっと感じられたんですけど、それをうまくできる子がフォローしてあげる、手助けしてあげる、そして一緒に動かしていました。ああいう姿は、いわゆる先生の授業を児童が聞いているだけじゃなくて、授業としては非常に楽しいもの、子どもたちの興味を引くものでした。このようなことから、プログラミングの授業というのは、今から大変大事になるんじゃないかなということでございます。</p> <p>ただ、それを教える先生を養成していくといいますか、先生の教習というのが大変だろうなと思います。最初は、やはり人材も提供していただくような方向でお考えいただいたら大変ありがたいかなと思います。</p>
市長	<p>やっぱりこれは、外部や会社など外との連携が基本かなと思っ</p>

発言者	発言の内容
学校教育課長	<p>てしまいますよね。どうでしょうか。先生方、学校や教育委員会はもちろんですが、お三方教育委員が言われたように、どんなものが本当のプログラミング教育の真髄なのかみたいなことを理解せずにこれをやっていったら、ただ単に空中戦で終わって、わざわざ学校でやっちゃうのもなあ、となるのかなと思っているんですよ。なので、そのあたりの計画はどうですか。</p>
市長	<p>市長がおっしゃったように、授業の中身、それから先生方の雇用時間の部分で、民間の力をどんどん運用していくこと、あるいは民間と一緒に授業していくことを進めたいと考えています。</p> <p>今回の場合はソフトバンクさんでしたけど、様々な企業、それからNPO、団体様々ありますので、今後はそういったところと連携しながら、センターと一緒に、先生方と指導力の向上を考えていきたいと思います。</p>
市長	<p>やっぱりこれって得意、不得意が先生方の中でも相当に出てくると思うんですよね。だから、一方的に言われたことをやるよりも、別府らしいやり方は何なのかということ提案された中で、もんでやっていくことも必要でしょう。学校で、皆さん方で、教育委員会の中で、先生方を選抜して、プロジェクトチームかなんか立ち上げて、得意な先生方を選抜して、一方的に業者の言いなりになるのでは当然なくて、自分たちのやりたいことをしっかり、こういう工夫でやっていこうと研究する場も必要という感じもします。</p>
学校教育課長	<p>例えば、民間といってもいろいろあって、必ずしも企業だけではなくて、個人で起業してる方、面白い発想を持ってる方、そういった方と連携しながら、力を借りながら、広げていきたいと思いますので、ぜひおっしゃったようなプロジェクトチーム、研究会を作って、検討したいと思います。</p>
教育長	<p>20年前にパソコンが入った時に、教育センターに情報教育担当の職員が配置されました。今はもう20年経ちましたので、今度は、プログラミング教育の専門の先生とか、あるいはグローバルの担当の方を入れて、モデル校とか、教職員の研修を中心に推進するような、そういう体制がいるだろうと思います。</p>
市長	<p>よろしいでしょうか。福島委員どうぞ。</p>

発言者	発言の内容
福島委員	<p>ここで英語の先生は、教育長は英語の先生ですけど、他にどんなかたがいらっしゃるのですか。国語の、英語の先生は、そちらにいらっしゃるのですか。</p> <p>要は、何が言いたいかという、言葉って、日本語っていうのは、象形文字なんです。林とか、火とか、人とか。東南アジアの方の言葉っていうのは、全部ですね発想の一つ、パって言ったら火を噴くとか。英文って状態文字なんです。要するに26文字をひっつけたり離したりしながらやるものなんですね。</p> <p>要するにc a rといえば車で、c a r r yといえば動詞になって運ぶになるし、c a r r i a g eまでいくと運搬という名詞になるわけです。そういう状態を作ったり離したりしてる。そこを、みんな英語の授業の時に教えてないんです。</p> <p>だから、ああいうロボットを使いながらやると、使ってる意味と、覚えてる意味が非常にわかりやすくて、授業で黒板に向かって空中戦で教えるより、より教えやすいんじゃないかなと思います。非常にやりやすいです。教育長だけが英語の先生だっているのは非常に残念なんですけど、実際に教壇に立っておられる先生方がこういう考え方を知りながら、ICT教育をやると非常に子どもたちもわかりやすくて、英語も上手くなるんじゃないかなという気がしました。</p>
市長	はい、ありがとうございました。
教育長	<p>武雄小学校は、5年生の授業でフィリピンの人たちとリアルタイムで10分間だけですけれども、数人のフィリピンの人と英語でやっています。</p> <p>うちの場合、ALTに入ってもらって、APUの学生もいますけど、ああいうふうになるとモチベーションも高まるし、国と国との境がなくて、すごく英語に対するモチベーションが高くなるので、外国語のケースというのは、そういう形で子どもたちに魅力のある場を提供すれば、すごく伸びるだろうと思います。</p>
市長	<p>論理的な思考もその中でしっかりと、どういう理屈でそうなっているのかとかいうことをしっかり理解していくというのは、大変いいことだと思います。それをぜひ。</p> <p>あと、時間がなくなってきたので、施設整備で、いわゆるハード面で購入の6億円というのは、あれって何か国からの財政措置</p>

発言者	発言の内容
<p>学校教育課長</p> <p>市長</p> <p>教育次長兼 社会教育課長</p>	<p>はあるのですか。後でいいのでまた教えてください。あるなしで言うと。</p> <p>特定財源ではないですけども、交付税です。</p> <p>交付税。何パーセント、後で教えてください。 時間がなくなってきましたので、続きまして、議題の3番、図書館等一体的整備について、社会教育課長よりお願いします。</p> <p>資料3それと「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」という両面刷りのカラー刷りの資料を御覧いただきたいと思います。</p> <p>まず、今回、別府市図書館等の一体的整備につきまして、社会教育行政の動向、これが、両面刷りのA4一枚の資料になります。この社会教育情勢の動向を踏まえて、別府市が目指す姿、それから新しい多機能公共空間を目指してということで、新しい図書館等の一体的整備の構想について御説明させていただきます。</p> <p>昨年12月21日に中央教育審議会は、今後の社会教育の舵取りが大きく変わるともいえる答申を出しております。</p> <p>その内容を抜粋しますと、持続可能な社会づくりを進めるためには、住民が自ら担い手として地域運営に主体的に関わることにより、社会教育を基盤とした人づくり、つながりづくり、地域づくりを図ることが期待され、そのために、産学官や地域との連携が必要とされております。</p> <p>また、今後の社会教育施設には、地域の学習拠点としての役割に加え、図書館には個人のスキルアップや就業等の支援及び住民のニーズに対応できる情報拠点としての役割が、博物館には学校における学習内容に即した展示・教育事業の実施・観光振興や国際交流の拠点としての役割が期待されています。</p> <p>これがそのA4一枚の表の部分です。裏面がそれを集約した内容となっています。</p> <p>3ページを御覧ください。今年度の整備の方向性として定めましたオープンプラットフォーム構想は、まさにこの考え方に合致するものと考えておりまして、それは、既存の図書館の機能を拡張するだけにとどまらず、むしろ従来の公共空間と異なる新たな多機能空間を創るという構想です。</p> <p>コアな部分には図書館等の役割をきちんと整備し、そこに民間施設を含む住民が主体的に関わることができる多機能な空間を創</p>

発言者	発言の内容
<p>市長</p> <p>福島委員</p>	<p>ることで、ハードとソフト両軸での賑わいづくりを図ります。</p> <p>図書館等を拠点として、地域住民・民間企業・行政が情報を共有し、かつ連携して地域の課題解決を図るなど、公民連携により、本市が持つ魅力や、多様性と受容力の強みを最大限生かし、地域の課題を自ら解決しようという当事者意識を醸成し、持続可能な地域づくりの拠点にすることを考えております。</p> <p>プライベートとパブリックが中間領域で緩やかにつながる新しい公共空間を創出し、社会の多様なニーズや新しい時代の要請に応える機能やサービスを民間主導・行政支援型で実施する仕組みです。</p> <p>この図にありますように、それぞれの機能が人の流れによって複合的につながり、一つの施設としての一体感をもたらし、本市が持つ魅力を最大限発揮する、50年先の子どもたちに残せる宝を作ります。</p> <p>資料4ページに移ります。今年度の整備構想では、グランドデザインとしまして、建設予定地を別府公園文化ゾーンと決定いたしました。当該予定地における用途制限等を考慮し、適正事業規模をおおむね5,000㎡を目安とし、その場合の概算事業費は約30億円程度と算定いたしました。</p> <p>時間軸と空間軸がゆるやかに繋がるイメージ図も載せておりますが、ここで算出した規模、事業費は目安であり、基本計画において決定する規模、機能に応じて変更する可能性があります。時間軸と申しますのは、この昼間の風景、夜の風景です。同じスペースが時間軸によって利用する方、集う方が変わってくる、そういうイメージをここで表しています。</p> <p>来年度以降は、これまでの取組を踏まえ、基本計画を策定し、設計に向けた条件を整理します。その後、基本設計、実施設計を経て着工する見込みです。説明は以上になります。</p> <p>それでは、本件につきまして、皆様から御意見、御質疑あればお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。どうぞ、福島委員。</p> <p>先々週に武雄市に行った時に、10年くらい前から有名な武雄図書館に行ってまいりました。そこに行く前は、やはり、TSUTAYAが入っていて、スタバが入っていて、そういうふうなイメージだったんですけども、やはりあれば、図書館と一体的に本を読むためにスタバがあるような感じですし、本を読むために人が集うよ</p>

発言者	発言の内容
	<p>うになったし、やっぱり一体という意味が、完全に本を読むためのっていうふうになってます。</p> <p>この今の別府市図書館等一体的整備ってというのは、なんかそこがちょっと焦点がぼけてるような感じがします。もちろん、公園と一体型でも結構ですし、いろんなところと一体型でもいいんですけど、まず図書館そのものが一体的に本を読むためのものというふうに、読むためにスタバがある、読むために TSUTAYA がある、読むために売る本屋さんがあるというようにやらないと、みんなが集まらないし、面白くないと思います。そこを私は強調して言いたいところです。</p>
市長	はい、ありがとうございます。小野委員、何かありましたら。
小野委員	<p>福島委員さんがおっしゃったように、まず肝心なことは、外観とかもいいんですけど、中に入った時にたくさんの本に囲まれているということ、たくさんの本の中で心豊かな空間を楽しむじゃないですけど、ちょっと疲れた時にスタバでコーヒーを飲みながら本を読めるとか、そんな感じが私はとってもいいなと思いました。本を見ていても、TSUTAYA で本を買って帰れるとか、時間的な制限も何時までとか決まりがなくて、結構遅くまでやってるということ。</p> <p>一番私がいいと思ったのは、こども図書館が新しくできたということで、あれも、子どもが小さい時から本になじむというか、遊びの中で本を読んで成長していくような感じがしたし、親子で楽しめる、お母さんと一緒に楽しめるので、ああいう空間もあるとこれからの子どもたち、先ほど50年先の子どもたちとおっしゃいましたけれども、今からでも小さいお子さんがそういうふうになっていくんじゃないかと感じました。</p>
市長	はい、ありがとうございました。高橋委員ありましたら、どうぞ。
高橋委員	<p>武雄市がめざす図書館像として、便利で役に立つ図書館というのを1番のテーマに挙げて、そして、いつでも利用できる、なんだか居心地のいい図書館であるということが現在の建物なり、内容なりになったというふうに話をいただきました。</p> <p>まさにそのとおりでなと思うのですが、今まで本に関わりのなかった人が、例えばコーヒーを飲みたい、あるいは文房具を買い</p>

発言者	発言の内容
	<p>たいと立ち寄ったら、中に本がたくさんある。じゃあ読んでみようかというふうな気持ちにさせる中身になっているなど。</p> <p>ですから、文化的な別府市の土壌を作るためにも、今まで本には縁がなかった人も気軽に立ち寄って、そして興味を抱かせるような、そういうものができないだろうかということと、先ほど小野委員さんがおっしゃっていたこども図書館は、私も大変気に入りまして、むしろそっちのほうに長くいたんですけれども、1歳・2歳児の子どもさんと一緒にお母さんが来て、一緒に横になって寝そべて絵本が読めるスペースがある。あの姿を見た時に、本当に、これは別府市にも欲しいなという思いがしてきました。ぜひ、そういうのをひとつ胸の中に入れてながら計画を練っていただけたらなと思います。</p>
市 長	<p>教育長なにか。</p>
教 育 長	<p>委員さんからも御意見ありましたが、ひとまもり・まちまもり自治区ということで、人を守る、人は赤ちゃんから高齢者まで、障がいのある方、外国の方、さまざまな人が利用できるというのが非常に大事だなと思います。武雄図書館については、赤ちゃんから高齢者までが本当に安心して過ごせるものになっておりますので、この方向で何か具体的な知恵が出せればと思います。</p>
市 長	<p>なかなかこの限られた10分、15分の時間では、全てをお伝えすることができないというところだと思いますし、私も、図書館というのは、この4年間ずっと関わってきたし、別府にとってよい図書館とは何だろうということを私が先頭に立ってやってきたという思いがありますので、もうちょっとどこかで時間を取って皆さんに中身を御説明できる機会がいただければなあと思っています。</p> <p>ここで「プライベートとパブリックが中間領域で緩やかに繋がる新しい公共空間を創出し」と書いてありますが、これがやはり肝なのかなと。</p> <p>本を読みに来るというのは、当然、図書館としての機能だろうと思っていますけど、やはり障がいを持たれた方や、留学生や学生、地域の方や子どもたち、高齢者が、ありとあらゆる別府での課題や問題を解決するために集まってきて、結果として、集まってきた所が図書館であったというような、そういう図書館を目指したいよね、というような話を初めにした覚えがあります。</p>

発言者	発言の内容
教 育 長	<p>だからといって、図書館としての本来の機能が損なわれているようでは意味がないと思います。私も武雄図書館、こども図書館に行きました。本当に素晴らしいなと思いました。ぜひそういうものも頭にしっかり入れていただきながら、機能として中に入れ込んだり、別府らしい図書館を作っていくために、教育委員の皆さんの意見を伺いたいので、また、次回の総合教育会議の中で、もうちょっと中身の話もしていただけるといいかなと思います。今日は、時間があまりなかったのでこれだけでしたけど、ぜひその中身の濃い話もしていただけるといいなというふうに思います。</p> <p>全体を通して皆様から御意見ありましたら、いただけますでしょうか。</p> <p>本年度の総合教育会議を通じて、いじめ・不登校の大きな重要課題を議論していただきました。別府市の教育委員会としまして、学校に来るべき子どもがいないような学校になっているというような学校もあり、学年もあり、そういう教師の資質等全てについて、地域の方々、保護者の方々に本当に申し訳ない気持ちでおります。</p> <p>ぜひ、抜本的に、学校の教職員の意識改革と学校のシステムと地域と繋ぐような教育をやっていこうということで、コミュニティ・スクールの推進をしっかりと、真剣に、本気になって取り組み、子どもたちが来れるような、そういう教育の在り方をぜひ進めていきたいと思います。本当に御協力ありがとうございます。</p>
市 長	<p>はい、そのほか皆さんから御意見ございませんか。</p> <p>冒頭に言いましたけど、ここは形式的な場ではないので、ほんとに議論を戦わせて、なぜできないんだと、できないんだったらどうしたらいいんだというのをしっかりと議論を交す実践の場だというふうに思っています。できてないところを厳しく追求していきますし、なぜできないのかということに対しては、次に新しい手立てを講じなければ意味がありませんから、そういった意味で、やはり緊張感を持って、これは教育委員会だけの問題じゃなくて、別府市挙げて、民間の皆さんも合わせて、問題の解決を全て図っていくと。不登校の子どもたちもですね、目標はゼロです。当然です。ゼロにするために、じゃあどうしたらいいのかということこれから皆さんと議論していければというふうに思っていますので、これからもよろしくお願ひ申し上げたいと思います。</p>

発言者	発言の内容
市長	議題の4ですが、事務局の方から何かありますか。よろしいでしょうか。なければ、議事を終了させていただきたいと思います。御協力ありがとうございました。
総務課参事	御協議ありがとうございました。1点だけ事務局より御連絡を申し上げます。
総務課長	今後ですが、平成30年度の総合教育会議につきましては、教育条件の整備等重点的に講ずべき施策や緊急の場合に、講ずべき措置についての協議の必要がある場合に実施いたしますので、お知りおきいただきたいと思います。
総務課参事	では、これをもちまして、平成30年度第2回別府市総合教育会議を終了いたします。本日は御参加いただき、誠にありがとうございました。

以上